

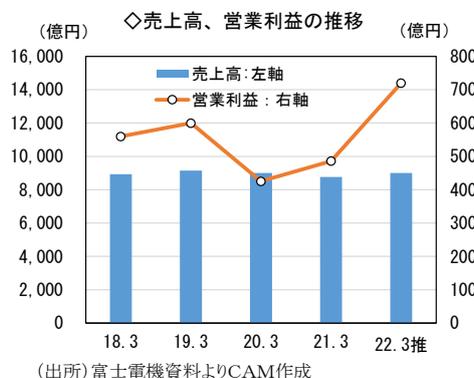
企業ニュース 富士電機

(東証プライム : 6504) <https://www.fujielectric.co.jp/>

作成者: 奥村義弘

パワー半導体とパワーエレクトロニクスがコア技術

1923年、古河電気工業と独シーメンス社との資本・技術提携により、富士電機製造として設立、電気機器の輸入販売を開始。重電機器、家庭電器、通信機、計測機器、半導体と事業領域を広げた。加速する自動車の電動化や再生可能エネルギーの導入などは同社への追い風となっており、強みとするパワエシステムやパワー半導体への積極投資を進めている。22.3期・第3四半期累計の売上高構成比は、パワエレ・エネルギー26%、パワエレ・インダストリー33%、半導体20%、発電プラント7%、食品流通10%、その他4%。中期経営計画では、創業100周年の24.3期に、売上高1兆円、営業利益率8%以上の計数目標を掲げる。



パワエレや半導体が好調

22.3期・第3四半期累計(4-12月)の連結業績は、売上高が6,200億円、前年同期比10%増、営業利益が327億円、同132%増。製品群別受注高では器具が前年同期比57%増、F A (低圧インバータ、回転機、F A コンポーネント、計測機器)が同53%増、半導体(産業+電装)が同32%増と高伸長。自販機も同18%増と回復基調。部門別売上高は、パワエレ・エネルギーでは、工作機械をはじめに国内外の機械セットメーカーの需要が大幅に拡大、データセンター及び半導体メーカー向け案件の需要も拡大した。パワエレ・インダストリーでは、鉄道車両用電機品の大口案件等が寄与、低圧インバータ及びF A コンポーネントも需要が拡大した。半導体ではディスク媒体事業撤退の影響はあったが、電気自動車向け及び産業向けのパワー半導体の需要が拡大した。

22.3期の通期会社計画は売上高が9,000億円、前期比3%増、営業利益が720億円、同48%増。10月時点と比較し、営業利益で50億円上方修正、内訳はパワエレ・エネルギーで20億円、半導体で10億円など。部材不足の影響が広がる中でも優れた対応力を示している。設備投資の面では、半導体需要拡大への対応で、8インチの生産能力拡大を進めている。また25.3期からの量産開始を目指し、SiC(炭化ケイ素)パワー半導体への設備投資を決定している。

[株価動向・投資判断]

E V向けパワー半導体への期待は高く、高めのバリュエーション(P E R)が許容されよう。

<6504 富士電機 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	900,604 (▲ 2)	42,515 (▲ 29)	44,513 (▲ 30)	28,793 (▲ 28)	201.6	80.00
21.3	875,927 (▲ 3)	48,595 (14)	50,401 (13)	41,926 (46)	293.5	85.00
22.3 推	900,000 (3)	72,000 (48)	73,000 (45)	52,500 (25)	367.6	未定



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価(2022/4/1)	6,060 円
年初来高値(高値日)	6,500 円(22/1/5)
同 安値(安値日)	5,180 円(22/3/8)
予想P E R(22.3推)	16.5 倍
1株株主資本(PBR算出用)	3,057.3 円
P B R	1.98 倍
予想配当利回り	— %
(1株当たり配当金 未定)	
R O E(21.3)	10.7 %
発行済み株式数	14,930 万株